

ブドウ「あづましずく」の発芽感温特性と発芽日予測法

福島県農業総合センター 果樹研究所栽培科

- 1 部門名
果樹—ブドウ—生理・生態
- 2 担当者
佐藤 守
- 3 要旨

2010年および2011年の2か年にわたり「あづましずく」と「巨峰」の発芽に対する感温特性について比較調査するとともに、ノンパラメトリックDVR法による「あづましずく」の発芽期予測法について検討した。

- (1) 26℃での発芽試験において採取日と所要日数の関係は「巨峰」で年次間差が大きく「あづましずく」で小さかった。「あづましずく」では12月に採取した穂でも2か年ともに正常に発芽した。「巨峰」では2010年は1月上旬の採取でも発芽しなかった(図1)。
- (2) アレニウスプロットでは「あづましずく」および「巨峰」ともに20℃で変曲傾向を示した(図2)。見かけの活性化エネルギーは「巨峰」より「あづましずく」で高く、「巨峰」で温度感応性が高いことを示した(データ省略)。
- (3) DVR関数による発芽予測では「あづましずく」は2月中下旬、「巨峰」では1月初旬を起算日とした場合で予測誤差が最少となった(図3)。「あづましずく」の2月10日を起点とする発芽までの平均気温の頻度は2.5~5℃が最も高かった。DVR関数は7℃近傍で相転換が認められ、7~17.5℃の範囲では直線性を示した(図4)。
- (4) 以上のことから「あづましずく」では遅くとも12月中下旬には発芽能力を備えている可能性が高く、温度感応特性に係わらず1、2月は「巨峰」よりも加温による発芽促進効果が高いものと推察された。

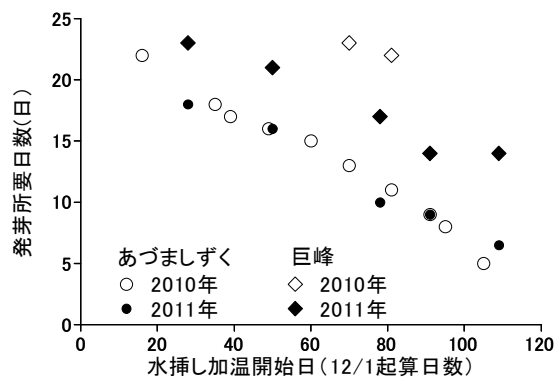


図1 26℃加温処理の発芽所要日数の年次比較

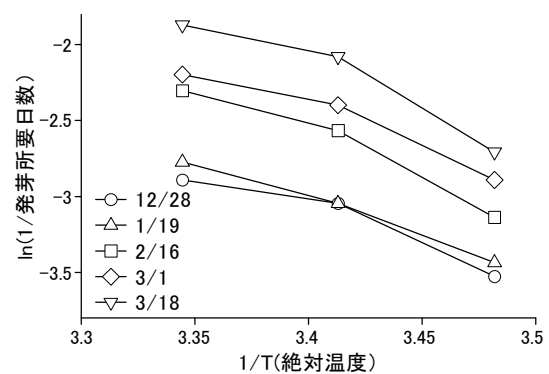


図2 発芽のアレニウスプロット(あづましずく:2011年)

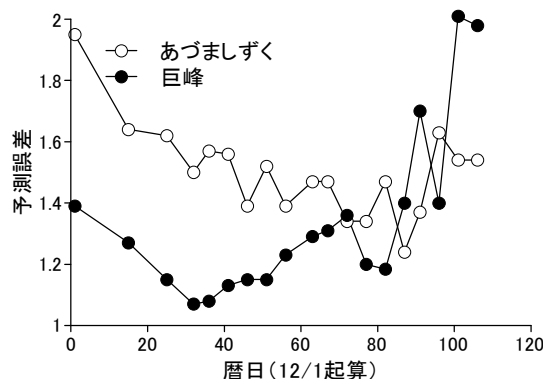


図3 DVR関数による発芽予測の予測誤差

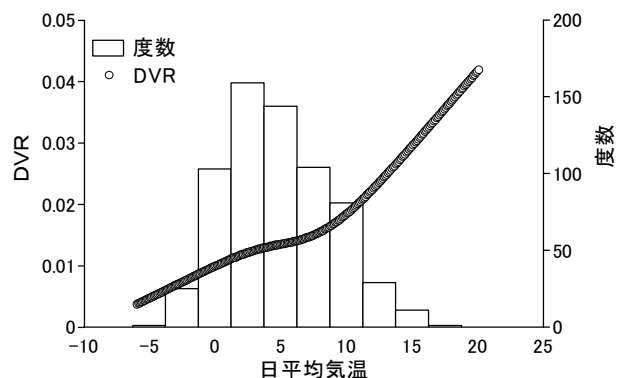


図4 ‘あづましずく’の発芽予測DVR関数(起算日:2/10)

- 4 成果を得た課題名
 - (1) 研究期間 平成22年度~23年度
 - (2) 研究課題名 本県オリジナル品種の特性調査
 - (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)
- 5 主な参考文献・資料
 - (1) 園芸学会東北支部平成23年度大会研究発表要旨p.11-12